

ネットワーク・オーディオへの希望

クラシック・ファンへの対応に不満

平本 修

データ音楽再生時代の到来

筆者はクラシック音楽の再生で、ハイエンド・オーディオを追求していますが、音源となるCDやSACDは衰退の一途をたどっています。では、新しく登場しているハイレゾやDSD音源にシフトするのがいいのかというと、市場に出回っている音源数が圧倒的に少なく、また新譜の発売も細々としています。これらがCD並みに潤沢になるのを待っていたのでは、筆者の人生は終わりを告げてしまいそうです。とすれば、現状でのベストな選択は、これまでに収集したCDをリッピングして、ネットワーク・プレーヤで再生する方法だと思います。こうして、ハイレゾやDSDが潤沢に出回るのを待つのがいいと思います。

しかし「CDリッピング音は、巷間喧伝されているハイレゾ音に比していちじるしく劣っているのでは？」という疑念があります。これに対する筆者の回答は「確かにハイレゾの優位性を認めるが、その差はごくわずかである」ということです。

優秀録音のハイレゾ(88.2kHz/24ビット)を44.1kHz/16ビットに変換して二者を比較試聴すると、わずかな差ながらハイレゾに優位性があ

りますが、注意深く聴かないと判別できないほどの僅差です。この程度の違いは、録音の出来、不出来でいくらかでも生じるというか、むしろ録音の出来による違いの方が大きいように思います。事実、市販されているハイレゾの中にはCDより音質の劣るものがいくつもあり、ハイレゾ崇拜はほどほどにした方がいいと思います。

一方DSDは、ネイティブ再生で脚光を浴びていますが、音源がまだわずかしか出回っていません。次代の主役になれるかどうかを判断するには、もう少し時間が必要です。技術的に優秀であれば市場を制することができるかという点、SACDの衰退事例もあり、予断は許しません。

ネットワーク・プレーヤの問題点

CDをリッピングして聴く場合、ネットワーク方式が音質や利便性の点で優れていますが、クラシック音楽を再生する場合、このネットワーク・プレーヤの性能が大きな問題となります。

長い楽曲や変奏曲では、頭出しのために細かくトラック分割しているCDが多数あります。これをCDプレーヤで聴く場合、トラックの切れ

目には気が付かないのですが、国産大手メーカーから発売されたネットワーク・プレーヤでは、このトラックのつなぎ目で1秒前後の瞬断を生じます。

マランツ NA-7004、ヤマハ NP-S2000、パイオニア N-50 と使って来ましたが、いずれも瞬断が発生し、クラシック音楽再生機としては不適格です。筆者は密かにこれを「しゃっくり再生」と命名しています。

(1) 瞬断の問題

そうした中で2013年2月にマランツより2世代目になる NA-11S1 が発売されました。販売店で実演確認したところ、「しゃっくり再生」は見受けられなかったので、3月に実機を入手しました。マランツに感謝、ですが、手放しでは喜ばませんでした。もうひとつ大きな問題があったからです。

それは iPad 専用のコントロール・ソフトが用意されていなかったからです。これに関しては後述することとし、もう少し瞬断レス再生（筆者の造語）の話を続けます。

以上のように筆者にとって NA-11S1 は救世的存在になったのですが、メーカーのホーム・ページで NA-11S1 の特徴欄を見ても、この瞬断レス再生については、一言も触れていません。これでは「当社はクラシック音楽には関心がありません」と宣言しているようなものです。

メーカーがこの調子ですから、他誌の新商品紹介欄における評論家諸氏も、私が知る限り瞬断レスには触れていません。業界に瞬断レスに相当する用語が存在しないことも問題ではありますが、マランツの商売っ気のなさには驚いてしまいます。これはクラシック音楽ファンに、瞬断

レス情報を届ける義務を怠っていることにもなり、残念なことです。

(2) 瞬断レス再生とギャップレス再生の違い

“瞬断レス再生”に相当する用語が業界に存在しないのに対し、“ギャップレス再生”という用語が存在しています。一見同意語に受け取れますが、まったく異なる機能です。ギャップレスとは、トラック間に意図的に設けられている5秒前後の無音部を強制的に削除する機能のことですが、クラシック音楽の再生には無用のものです。

(2) 重要なコントロール・ソフト

ネットワーク・プレーヤの操作は、スマートフォンやタブレット端末等のタッチ・パネル端末が断然有利です。スクロールの簡便さと速さが、圧倒的に優れているからです。このため、各社ともタッチ・パネル端末用のコントロール・ソフトを無償で提供しています。

しかし、NA-11S1にはiPad専用のソフトが用意されていないので、iPhone用を組み込みこむことになりませんが、iPhoneの狭い画面用に仕様が固定されているため、画面の大きなiPad (mini) に組み込んでも、表示情報量はまったく増えません。たとえば「くるみ割り人形」の各トラックの曲名表示は

Tchaikovsky : The Nutcrac

で打ち切られ、全24曲が同じ表示になります。

いずれiPad専用のソフトを開発してくれるだろうと待つこと久しく、10月下旬にようやく専用ソフトが発表されました。これでクラシック音楽を楽しむ環境が随分整いました。いまこそマランツに感謝！です。

(3) NA-11S1 への要望

以上、NA-11S1は救世的存在といただきましたが、それは機能面においてのことです。音質面では、音像の鮮明度が足りないために、筆者は光ケーブルで外部DACに接続し、こちらを常用しています。

なお、NA-11S1はDSDネイティブ再生が可能です。これには外部DACは使用できませんが、最新技術による音を確認することができるのは、有り難いことです。

ユーザーとはわがままなもので、要求はさらにエスカレートします。CDプレーヤにはかならずある「早送り」と「逆戻し」機能です。この操作は本体操作盤からはできますが、iPhone、iPadからは操作できません。また「一時停止」もできません。以上の3点は、ぜひ改善していただきたいと思います。

また、ファイル形式、サンプリング周波数、ビット深度の3点を画面の片隅に表示してもらえれば、有難いです。

さらに、ビデオ再生ソフトでは一般的となっている「進捗バーを直接操作して再生位置を指定できる」機能を開発してもらえれば、機能的にはベストです。

このようにコントロール・ソフトの出来具合ひとつで、使い勝手がずいぶん違って来ます。ぜひ、ソフトの熟成に向かって努力していただきたいと思います。

HDD オーディオ・プレーヤへの希望

昨秋ソニーからHDDオーディオ・プレーヤが発売されました。HDDを内蔵し、NASなしでデータ再生を楽しめるプレーヤです。しか

し、データ管理面でのクラシック音楽再生への適合性が気になります。

NASと同様に、曲目検索はタグ情報で行いますが、この情報は和英表記入り乱れているほか、人名の表記法もファースト・ネームの扱いを含め統一されていません。「アルバム」「アーティスト」のカテゴリから曲名を探すこととなりますが、表記法が統一されていないため、面倒です。

筆者は「フォルダ」カテゴリで管理しています。(作曲家)領域と、(アルバム)領域に分け、それぞれに必要なフォルダを作成します。(作曲家)名は日本語でわかりやすく表記します。(アルバム)名は、ずばりそのものか、わかりやすい日本語名に書き換えます。

具体例を示します。「シェリング演奏のバッハのシャコンヌ」を聴きたいと思ったら、つぎのようにフォルダ階層をたどって行きます。「バッハ」「無伴奏vnのためのソナタとバルティータ」「シェリング」「バルティータ第2番ニ短調」と順にフォルダを開いて、5曲目を選択すれば、あっという間に目的の楽曲を探し出せます。

作曲家名が混在する小品集は「諏訪内晶子：メロディ」のような名称でアルバムとして収納しています。

NAS内の「share」フォルダの傘下にフォルダを構築するだけですから、外付けHDD内にフォルダを作成する技術があれば、簡単に構築可能です。自前で管理するので、検索も戸惑うことはありません。

しかし、ソニーのHDDプレーヤーにはこの「フォルダ」のカテゴリがないようなので、クラシック音楽用途としては、検索に懸念があります。

また内蔵HDDは便利な反面、機

種変更時や破損時の対応がたいへんです。必然的にバックアップが必要となりますが、データの二重管理になり、HDD内蔵化のメリットが薄れます。その点、ネットワーク・プレーヤーは、機種変更をしても何の支障もなく、またRAID機能を持ったNASを使用すれば、ミラーリングで複数のHDDに同時に書き込みがなされるため、NAS破損時に全データを失う危険性も極めて低くなります。

音場再生の重要性

クラシック音楽ではホールで聴く感動を得ることが最終目標です。これには3D音場再生がベストですが、2チャンネル音源でこれを実現できると宣言しているのは筆者のみのようです。

ネットワーク・オーディオによりジッタから開放された、まったく混

濁感のない鮮明な音に加えて、3D音場が加わると、再生音が実音化し、あたかもホールの特等席で聴いているかのごとき感触が得られます。すなわち、生演奏の感触です。わずか10畳の部屋から壁が消え、大ホールやサロンや大聖堂が出現します。

この音場再生による感動は絶大です。ハイレゾ音とリップング音での音質差などは些細な問題だと思えるほどの、強い感動が得られます。これを信じるには「百聞は一聴にしかず」しかないでしょう。

以上のように、圧倒的な感動をもたらす「ネットワーク・オーディオ+3D音場再生」は、オーディオの一つの到達点を示しています。この方式がこれからのクラシック音楽再生の理想的な姿になる、との思いをますます強くしています。